

Title	思い出に残る北先生の授業
Author	塩見, 橘子
Citation	情報学. 10 卷 2 号
Issue Date	2013
ISSN	1349-4511
Type	Article
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻
Description	北克一教授退官記念特集号
DOI	

Placed on: Osaka City University

思い出に残る北先生の授業

塩見 橘子[†]

私は、2005年～2008年において大阪市立大学大学院創造都市研究科都市情報学専攻分野の修士課程、博士課程において北先生研究分野に所属させていただき、授業や論文指導など様々な面でご指導をいただいた。それらの中で、北先生の授業に関して、思い出に残るもの何点かをご紹介します。

(1) ワークショップについて

創造都市研究科においては、毎週ワークショップの企画がある。我が国のその分野の時の人を招聘し時の話題をテーマに講演していただくというものであり、輪番制で担当者が決められ、司会進行や、最終段階においては記録をまとめるというものである。ワークショップのテーマと研究分野の近い学生は、勿論のこと、少し遠い研究分野にいる学生にとっても、わくわくする授業であった。私達の専攻においては、情報基盤系と情報メディア系の主題と交互に企画された。情報基盤系と情報メディア系との壁を取り払われ、最先端の話がいながらにして拝聴でき、知識や視野が広がり、研究の発展につながるものである。北先生は、学生の研究テーマに関しては日本中どこからでも第一人者を招聘してくださる段取りをしてくださった。情報メディア系では、元国立情報学研究所の小西和信先生、電子ジャーナルに関して加藤信哉先生、大学図書館評価に関して佐藤義則先生などをお招きしてのワークショップが開催された。そして、講演会終了後は、必ずや、杉本町で懇親会があり、参加者一同はその分野の一人者とじかにお話ができるという機会に恵まれた。また、

卒業後の現在も、情報基盤や情報メディアに関連するワークショップについては、北先生や担当者からメーリングリストにて参加のご案内をいただくことができ、私は、そのことに深く感謝している。

(2) 6段階ステップを盛り込んだ授業や模試学会発表授業

北先生は、授業開始にあたり、分厚いコピーを生徒一人ずつ配布してくださった。これは、情報メディアに関連する基本参考書の一部のコピーであった。それらについて、各項目を受講者全員で分担し、より深く、調査、研究し、それらをまとめて、発表するという課題が提示された。

この授業内容には、様々な意味で情報活用能力育成のための6段階ステップ(1.テーマの設定、2.情報探索の計画、3.情報・資料の探索と収集、4.情報・資料の活用、5.情報・資料のまとめと伝達・保存、6.学習活動の評価)や、かつ、調べ学習的要素もはいつているという、充実した内容であった。一方では、発表については、学会発表方式により、20分の発表、15分の質疑応答と終了時や5分前のベルの提示等が課せられた。ぼんやりしていられない私達は、忙しく楽しく課題に取り組み、かつ、模擬学会発表も経験することにより、論文発表や学会発表に備えることができた。北先生は、あらゆる機会に、私達を教育、指導して下さいました。

(3) FRBRについて

北先生は、某授業においてたまたま遭遇した国立国会図書館所蔵のマイクロ形態の“おとぎぞうし”について、FRBR方式で目録をとると

[†] 立命館大学文学部非常勤講師

いう課題を提示された。大学図書館関係者3名で、取り組むことになった。FRBR自体がよく分からない私達は、FRBRの勉強や、無著者名古典としての”おとぎぞうし“について調べることが必要であった。皆で、あれやこれや有る知恵ない知恵を絞り出したり、上級生から情報収集したりして、目録を作成し、先生のところに伺った。3回ほどのだめだしをいただき、私達は力つき、お手上げ状態となった。先生からは、いまだに、回答についてのご説明はいただいていない。このことについて、私達は、納得ゆくまで勉強し、自分たちで、回答を出しなさいという先生の警告なのだと思いつめている。

(4)メタデータについて調査、発表

私は博士課程の時代、梅田のサテライトでの、修士課程の授業を聴講させていただくことができた。そこでの北先生の授業は、国立情報学研究所メタデータ・データベース共同構築事業における記述要素を教材として取り上げ、メタデータ記述部分の各項目について分担を決め、調査、報告、発表するというものだった。聴講の私も仲間に加えていただき、分担、調査、発表する機会をいただき、一つの項目を担当させていただいた。お陰様で、名称だけは分かっているけれど内容は今一よく分かっていないメタデータに正面から向き合うことが出来た。その後、色々な場面でメタデータに遭遇するが、メタデータを勉強したことがある私達は、お陰様で少なからず自信が持てる。また、北先生の御指導

よろしく、その時の全発表に関しては電子紀要に掲載される運びとなった。

当初、国立情報学研究所共同構築事業としての機関リポジトリの蓄積を検索してみたら、千葉大学と北海道大学が例外的にあるのみで、ほとんど蓄積はないに等しかった。また、メタデータに関する研究は当初はまだ少なかった。大学図書館評価をテーマとしていた私は、当初、北先生から、機関リポジトリに関連してもっと調査して修士論文の中身に盛り込むようにというご指導を、いただいていた。数年後を経過した現在、文部省の施策により推進されたこともあり、国立大学図書館を中心に機関リポジトリ構築事業の蓄積は100万点にまで達している。そして、機関リポジトリ構築事業は、大学全体における大学図書館の存在価値を示すものとして、大きな位置付けとして発展している。

北先生は、常に時代のずっと先を予測し、走られていることが実証された事柄であった。

北先生らしい御指導は、4つのエピソード以外にも、様々なところに存在する。北先生は、真の学問を追究し、時に厳しく、時にやさしく、常に私達を教育、御指導くださった。それらの事に深く感謝するとともに、北先生の今後のご活躍、ご健闘を心より祈り、結びとしたい。